

平成 22 年 5 月 15 日現在

研究種目：若手研究 (B)
 研究期間：2008～2009
 課題番号：20730119
 研究課題名 (和文) アフリカにおける「失敗国家」化と武装集団化との連動に関する研究
 研究課題名 (英文) A research on relationships between state failure and armed group in Africa
 研究代表者
 山根 達郎 (YAMANE TATSUO)
 広島大学・大学院国際協力研究科・助教
 研究者番号：90420512

研究成果の概要 (和文)：国家の統治能力が極めて低い状況を指す「国家の失敗」を活躍の場とする「武装集団」についての解明が、紛争後社会の秩序あるガバナンスの構築にとって不可欠な課題となっている。この問題意識を念頭に、本件研究は、そもそもなぜ「武装集団」化するのかという問いについて、「国家の失敗」化との連動プロセスにおいて明らかにすることを目的としており、アフリカにおけるリベリア事例を中心に研究成果を提示した。

研究成果の概要 (英文)：A research on “state failure” which is widely designated as a fertile soil for armed groups under low level of state legitimacy becomes essential to establishment of governance with order in societies after ending armed conflict. In this regard, this research intended to analysis a dynamic process of relationships between state failure and armed group and attempted to show an outcome from this research in the field of International Relations, especially on a case study of Liberia.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2009年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：アフリカ、「国家の失敗」、武装集団、「新しい戦争」、平和構築、主権国家、武力紛争、国際安全保障

1. 研究開始当初の背景

(1)本件研究代表者は、本研究開始以前に、国内紛争における和平合意後の平和維持と平和構築との複合的連動に関する「DDR」(元戦闘員の武装解除[disarmament]、動員解除[demobilization]、再統合[reintegration]の

略)の研究を進めてきた。国際平和活動にとって治安の安定化と経済社会開発とを同時に促進させる DDR は不可欠な作業である。ただし、こうした DDR による介入には、武装集団間の調整や、現地社会主導による平和構築の尊重など、極めて「政治」的な配慮が

必要である。そのため、DDR「プロジェクト」が終了しながらもなお武力衝突の絶えないアフガニスタン事例など、DDR という現象を国際政治学上の観点から分析する論考も多い。しかし、これまでの DDR 研究は国際平和活動における DDR の政治的な役割自体に焦点を置く傾向にあり、武装解除の対象としての武装集団の構造や、その武装集団化のプロセスをたどるような分析はなかった。

(2)他方、冷戦終結後に顕在化する国内紛争の解明を目指し、その現象を捉えようとした国際政治学上の代表的な研究として、「失敗国家」や「破綻国家」についての議論がある。国外ではウィリアム・ザートマンやロバート・ロトバークらによる研究が代表的である。国内においても、アフリカにおける破綻国家を研究する遠藤貢氏や「国際秩序と国内秩序の共振」として国内紛争の構造を研究する石田淳氏の研究業績などがある。また、「破綻国家」や「失敗国家」と関連して、基準としての「主権国家」についての研究もある。本件研究代表者は、これら「失敗」しつつある国家を主権国家の政治的動態（例：国家ガバナンスの構築）として捉えつつ分析を試みることで、多発する武力紛争の構造を明らかにする上で欠かせないものと考えた。

2. 研究の目的

(1)本研究では、2年という研究期間を鑑み、西アフリカに位置するリベリアの紛争事例に絞ることで、より精緻化した「失敗国家」化と武装集団化との連動のメカニズムを明らかにしようとした。

(2)平成19年度米国国際政治学会（ISA）（2008年大会）および平成19年度日本国際政治学会研究大会での発表内容をさらに深化・発展させる方向で、以上に示した本研究の全体構想を具体化するために、理論研究および実証研究の両面から以下の3点を本研究の具体的目的として掲げた。

①「失敗国家」化と武装集団化との連動に関する理論分析について、主に国際安全保障論や平和構築研究の観点からさらに発展させる。

②1990年代（第一次内戦）と2000年～2003年（第二次内戦）を通じて「失敗国家」化したリベリアについての実証研究を進めるため、現在国家建設の進む同国への現地調査を毎年おこなう。

③リベリア紛争における主要なステークホルダーから地域的機構を外すことはできない。リベリア紛争に深く関与したアフリカ連合（AU）と西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）への現地取材を実施する。

3. 研究の方法

(1)本件研究代表者は、研究手法として、理論研究（「新しい戦争」、ガバナンス、失敗国家、非国家主体としての武装集団）及び実証研究（現地調査として、紛争後地域のリベリア、及び地域的機構の本部（エチオピア〔AU本部〕及びナイジェリア〔ECOWAS本部〕）を実施することを目指した。

(2)平成20年度は、主に理論研究のサーベイを進め、実証研究としてリベリア及びナイジェリアへの現地調査を実施した。平成21年度には、理論研究として、関連する理論を実証研究と照らし合わせつつ検討し、継続的な実証研究としてエチオピアでの現地調査を実施した。

(3)また、成果発表として、各年とも国内外での学術報告を実施した。これらの報告内容を踏まえて、学術雑誌に本研究に関する論文（主に英語）を順次発表した。

4. 研究成果

(1)平成20年度の研究成果

本研究の目的であるアフリカにおける「失敗国家」を活動の場とする武装集団についての解明に照らして、平成20年度は、「失敗国家」に関する理論研究のサーベイと、リベリアおよびナイジェリアの現地調査にもとづく実証研究との双方を、その中間段階の作業としておこなった。

理論研究としては、1990年代から主にロバート・ロトバークやウィリアム・ザートマンらによって蓄積されてきた「失敗国家」に関する主要な研究をまとめつつ、武装集団と「失敗国家」との関係性について論じた最近の海外での研究動向を踏まえた論考をまとめた。その際、国内におけるこれまでの「失敗国家」に関する議論についても参考にした。

実証研究としては、平成19年度に引き続き2度目となるリベリアへの国外調査を実施したほか、リベリア平和構築の実施のためのひとつの誘引となった地域機構（西アフリカ地域経済共同体〔ECOWAS〕）本部（ナイジェリア）を訪問した。平成20年度はリベリア平和構築における元戦闘員の動向についての特色を論文にまとめたほか、西アフリカの地域機構がリベリアを取り巻く国家や武装集団に及ぼした影響についての論考も発表した。

また、本件研究経費により、本研究のこれまでの調査を踏まえ、ドイツ・ボンに本部をもつ国際的研究機関（ボン軍民転換国際センター〔BICC〕）主催の国際会議にも出席し、研究者や実務者とも意見交換をする機会を得ることが可能となった。

(2)平成 21 年度の研究成果

平成 21 年度には前年度までの研究実績を踏まえ、本研究の目的であるアフリカにおける「失敗国家」化と武装集団化との連動についての研究成果報告を積極的におこなった。本件研究代表者は、武装集団の活発化と連動する「国家の失敗」の状況についての理論分析を深めると同時に、本件研究対象としてのリベリアの紛争事例のみならず、アフリカにおけるその他の紛争国やアフガニスタンの事例を並行して取り上げつつ分析の幅を広げる試みもおこなった。

本年度の研究は、前年度の研究（先行研究の整理、「国内的アナーキー」や「新しい戦争」などの関連概念の検討、リベリアの事例研究）を踏まえている。

とくに理論面では、①主権国家体制強化の歴史的プロセスにみる「国家の失敗」論の再考、②「新しい戦争」時代の「国家の失敗」と武装集団との関係、の2点について論じた。

すなわち本件研究代表者は、第一に、主権国家のガバナンス能力が極めて低い「国家の失敗」の状態について、17世紀以降に成立した主権国家体制の制度化の歴史を紐解くなかで再考する作業をおこなった。このことは、現代武力紛争における「国家の失敗」の特殊性を相対的に浮かび上がらせるとともに、武装集団が関与する「国家の失敗」の原因が長期的な歴史的プロセスにおいても観察するという学術的意義をも示すことにつながった。

そして第二に、本件研究代表者は、Mary Kaldor によって提起された「新しい戦争」論が「国家の失敗」の議論とも連動しうる点について着目し、「新しい戦争」の主要主体としての武装集団の特色について、さまざまな形態の「国家の失敗」を分類化する中で論じた。

これにより、国際・地域・国内といった多層的なレベルにまたがる「失敗国家」化と武装集団化との多様な連動関係を示すという研究上の意義のみならず、その多様な連動関係に対応する平和構築のための研究・実践上の重要性をも示すことにつながった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

①山根達郎、DDRとSSR—「人間中心」を目指すDDRの視点から、IPSHU研究報告シリーズ(特集:平和構築と治安部門改革(SSR)—開発と安全保障の視点から)、査読無、第45号、2010年、91-100、
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/Pub>

/45/ipushu-45.pdf

②Tatsuo Yamane, State Failure and Armed Groups: An Implication on Peacebuilding, *Hiroshima Peace Science*, 査読有、Vol.31, 2009, 111-136、
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/JNL/31/Yamane31.pdf>

③Tatsuo Yamane, Examining Regime Change Dynamics in Afghanistan through Relationships between States and Armed Groups, *IPSHU English Research Report Series*, 査読無、No.24, 2009, 25-38、
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/Pub/E24/yujiuesugied.pdf>

④山根達郎、国家の失敗と武装集団—『国内的アナーキー』の議論を中心に、IPSHU研究報告シリーズ(松尾雅嗣教授退職記念研究論文集、平和学を拓く)、査読無、第42号、2009年、235-254、
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/Pub/42/13Yamane.pdf>

⑤Tatsuo Yamane, Examining West African Regional Security through Relationships between States and Armed Groups: A Study of Regime Change Dynamics in Liberia, *International Public Policy Studies*, 査読無、Vol.13, No.1, 2008, 215-227

[学会発表] (計3件)

①Tatsuo Yamane, Failed States and Armed Groups: An Implication for Peacebuilding (Panel Title: Case Studies of Peacebuilding), International Studies Association (ISA), 51st Annual ISA Convention, 19 February 2010, New Orleans, USA

②Tatsuo Yamane, Failed States and Armed Groups: An Implication for Peacebuilding, Research Seminar in Tampere Peace Research Institute (TAPRI), University of Tampere, 18 May 2009, Tampere, Finland

③Tatsuo Yamane, Failed States and Armed Groups: An Implication for Peacebuilding, The 19th HIPEC Research Seminar (Hiroshima University), 18 December 2008, Hiroshima

[図書] (計1件)

①山根達郎、他(武内進一編による共著)、アジア経済研究所、戦争と平和の間—紛争勃発後のアフリカと国際社会、査読有、2008、163-203

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山根 達郎 (YAMANE TATSUO)

広島大学・大学院国際協力研究科・助教

研究者番号：90420512

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：